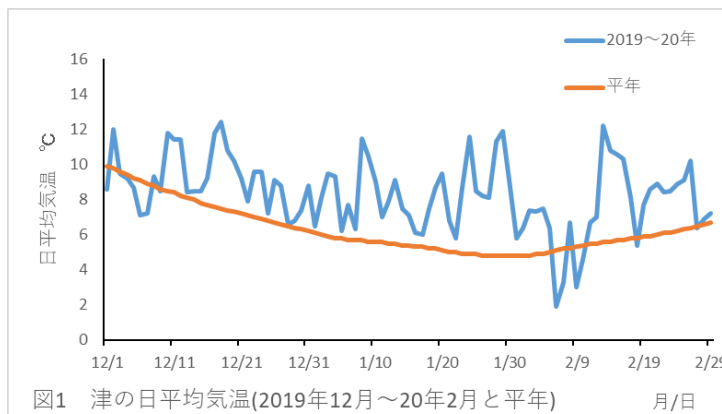


病害虫防除技術情報 第1号

令和2年4月20日
三重県病害虫防除所

昨年引き続き水稲のスクミリンゴガイの被害が予想されます。

1. 対象作物 : 水稲
2. 対象病害虫名 : スクミリンゴガイ
3. 発生状況
 - (1) 近年、伊賀地域を除く県内全域でスクミリンゴガイの発生が増加しています。
 - (2) 令和元年6月上旬に行った水田の見取り調査では、スクミリンゴガイの被害発生圃場率は、9.7% (平年2.4%)で、過去10年と比較して最も多い状況でした。
 - (3) 令和元年12月から令和2年2月にかけて、日平均気温が平年に比較して高かったため、越冬率が高いことが推測されます(図1)。
 - (4) スクミリンゴガイは気温17°C以上で活動が活発になります。津のアメダスデータの平年値では最高気温で4月の第2半旬頃、日平均気温で5月の第1半旬頃に相当します。
4. 防除対策
 - 1) 薬剤による防除
 - (1) 防除の適期はイネへの被害が大きい移植後から移植後3週間までです。スクミリンゴガイの動きを確認して、使用基準に従い実施して下さい。薬剤は三重県農薬情報システム (<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/mie>)で検索することができます。
 - (2) 湛水状態で処理し、7日間は落水やかけ流しを避けましょう。
 - (3) 用水路など水田以外の場所には散布できません。
 - (4) 殺菌剤と食害防止剤を併用する場合は、殺菌剤を散布後7日以降に食害防止剤を散布しましょう。殺菌剤を散布する前に、食害防止剤を散布することは控えてください。
 - 2) 耕種作業による防除
 - (1) 田面の水が深い部分に集まる習性があるため、浅水で管理すると被害が少なくなります。
 - (2) 入水口に約5mm目合いの網を張り、水路からの侵入を防ぎましょう。また、貝を捕殺し、卵塊は水面に落としましょう。
 - (3) 既に発生が多い水田で使用した農業機械は、作業後に十分洗浄し、未発生水田に貝を持ち込まないように注意しましょう。



農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください！